

足尾地域まちづくり懇話会“あしお茶論”

日 時：平成 30 年 6 月 30 日（土）10：00～

場 所：足尾庁舎

テーマ：足尾地域の観光誘客

次第：1 開会 足尾行政センター所長

2 挨拶 日光市長 大嶋 一生

3 意見交換

4 その他

5 閉会

《意見交換内容》

参加者 6 イベントの広報といたしまして、足尾町の三大お祭りといってもいいくらいの 5 月の足尾まつり、8 月の納涼祭、11 月 3 日に山芋品評会というのを毎年足尾町時代からずっと続けてやっております。それに関してあまり知られていない、足尾町全体ではわかっているけれども、本当にやるのかくらいであります。山芋品評会に関しては、銅山観光にいらっしゃったお客様も、今日やっているのですねぐらいで寄ってくださる方もたくさんいらっしゃるので、どういうふうにしたら皆さんに知ってもらうことができるのかということも、大きな課題だと思います。今年になって 5 月のお祭りのときにも、他の地区の商工会議所の女性部長から電話をいただきまして、新聞に載ったけど大きなお祭りがあるんだねと、その日の電話だったので、足尾町時代からずっと続いている有名な足尾のお祭りなのですよと言ったら、一度見てみたいと思うけど、もう少し早く知っていれば行けたのにねという言葉もいただいたので、新聞に載る前に何で広報をしたらいいのかなというのが悩みです。

観光部長 今のお話で、どうやって知らせるかということですがけれども、観光協会と連携してホームページやパンフレットをつくったり、SNS というツールも使っております。また、どこかのイベント会場に行ったときには、市のパンフレットなどでイベント情報を PR しております。また、首都圏向けでは観光情報発信センターもございます。先ほどの 3 つのお祭りは存じ上げておりますが、どのタイミングでこういうものを使って流すのが効果的かというのは、今後、また観光協会とも一緒に連携を図っていきたいと思っております。

参加者 3 足尾につきましては、いろいろな観光的な要素が結構あると思うのですが、やはり高齢化と、足尾の人の気質みたいなものがありまして、自分から発信できないところがあるのです。今までにも国立公園や自然公園とかの PR が、パンフレットやポスターには記載されていないものですから、これに気づかせるということも必要だと思います。イベントを開いても、足腰が痛いとか交通の便が悪いとか、あんまり積極的でないところがあるわけです。こういったものを少しでも打破しないと、よそ様から来ていただくという体制がつかれないのではないかと考えております。

参加者 7 個人的にフェイスブックで、足尾について相当発信しているつもりでいます。今は、情報社会、SNS、スマホの時代、何でもネット時代になっているのですが、紙ベースの方もたくさんいらっしゃ

るので、ここをどうやってすり合わせるかなというのはあるのですが、私がすごく思っていることは、日光市の観光のホームページで、写真が自由に担当課で差し替えられないかなと思います。例えば、ホームページ開いて見ても、かじか荘にしても、新しくなったかじか荘は出ているのですが、オープン前の押入れが開いた状態とか、ベットメイクされていないとか、そういう写真が載っています。そういうところは、頻繁に1カ月に1回チェックとか、季節毎に写真を入れ替えるとか、日光をどうやったら一番最高に知ってもらえるか、魅力を発信するというのは、観光協会ならず日光市においてもせっかくそのページがあるので、その辺も自由に差し替えられるような提案をしたいと思っています。それから、自分の携帯代はかかるかもしれませんが、職員の皆さんにもう少しスマホを活用していただいて、もっとファンブックに登録して、どんどん地元を発信していただければと思います。職員の方で、やっている人はやっているのです。観光課とか産業建設課とか限らず、全員で日光市の魅力を発信するような意識を持ってやってもらいたいと思っています。その中で、銅山観光は何ととっても足尾の観光の一押しであって、これは昭和55年から続いているわけなのですが、私は昭和55年に足尾町の役場に入って、キャラバンも行きましし観光にずっと携わってきて、辞めてからも観光が好きで勝手にやっているのですが、そういう中でも、銅山観光はものすごく面白い要素がたくさんあるとみなさんから言われています。今、副業ボランティアでさんしょう家というお店で足尾の特産品の山椒を発信しています。そういうところに来るお客様に、いろいろ意見を聞いて、それを少しずつ反映していこうと思っています。少ないながらも外国人もいらっしやっていて、日光市全体で4か国語表記を推奨していると思いますが、足尾銅山観光はなされていないと思うのですが、いかがでしょうか。この辺は市の予算で4か国語表記をお願いしたいと思います。ボタンを押せば人形は動くのですが、もう少し進化した宣伝の仕方、魅力を発信していただきたいというのがお願いです。

副市長 案内標識のことなのですが、次の方お願いします。

参加者9 案内標識というか、土日だけでもボランティアで案内できる人をお願いしたいということと、足尾に緑を育てる会の活動スタッフをやっていますが、その点ではいろいろお役に立てるかなと思います。防災の立場から、道路上の木の枝を除けたりすること、側溝なども気を付けるようにしてくださいということです。

副市長 観光客向けのPRという観点で、次の方お願いします。

参加者10 私が感じたのは、トロッコ列車から足尾駅に降りると、何も無いのです。そのために、足尾の歴史やいいところなどを、ビデオなどで映したらお客さんも飽きないのではないかと思います提案しました。

副市長 次は、見学場所の道筋ということなのですが、次の方お願いします。

参加者12 足尾町の観光に対して場所はあるかと思うのですが、その道筋として1つのページにまとめてPRしたらいかがかなと思っています。

観光部長 一番最初にいただきました、足尾には色々な要素があるけれども、なかなか発信がという話がありましたけれど、そういったものは市としても、地域の観光課もございますので、そういったところで情報を集めて、最初の方のお答えにもさせていただきましたように、様々なツールを使って周知や PR に努めていきたいと思っております。それと、写真を差し替える、リアルタイムにというようなお話ですけれども、まさにその通りだと思います。日光 Fan book は市のブランド協議会がやっておりますが、ご意見をいただきましたので、早速足尾観光課の職員が書き込みできるようにメンバー登録をさせていただいて、こちらにつきましては新鮮な情報、リアルタイムで更新していきたいと思っております。それと、4カ国語表記の件ですが、標識の多言語化の中で、確かに4カ国語というのを基本にしております。銅山観光につきましても同様な考えでございますが、例えば出口や入口、トイレという小さい表記であれば、4カ国語での表記もありだと思っておりますが、何かの説明とかになりますと、4カ国語になると大きくなると思います。音声での紹介ということですが、まずは日本人の方に PR するか、それを外国の方にもお伝えするかということでは、看板だったり音声が出る装置だったり、場合によっては、コンテンツとして何かをやって、その中でまち歩きナビというのもございますので、この辺に関しては検討させていただきたいと思っております。それと、案内標識を置くということがございましたが、日光市のほうで観光施設管理計画をつくっております、案内板だけでも市内だけで 622 ございます。そういったものを順次古くなったものを交換するとか、必要になったものを新しくつくるとかをしていますので、そういったかたちで対応させていただきたいと思っております。土日のボランティアガイドというお話でしたが、ボランティアの仕組みもございます。確かに来られた方が駅を降りても、何も案内がないので不便に感じる場所もあると思っておりますので、そういう仕組みも必要だと思います。また、足尾に緑を育てる会がスタートということでございますが、足尾にはいろいろな要素がありますという中で、やはりそういう環境学習といった面は、足尾の強みで売りの部分になってくると思っておりますので、そういった部分は PR していく必要があると思います。事前にいただいております中で、各駅で歴史案内のビデオ放映をというお話ですが、4つの駅がございまして、全て無人駅ということですので、そういった機器を設置してという話になってきますと、運用面やセキュリティ面で課題があるのかなと捉えています。先ほどの方の意見にもありましたけれども、スマホなどを使う中で、例えば動画とかでコンテンツをつくって、足尾に来ていただく前に見ていただいたり、この場に来て見るのは可能だと思いますし、旅が終わって戻った後に振り返りで見いただくのもありかなと思います。そういった手法を考えていく必要があるのではないかと考えています。それと、道筋用の PR ということですが、今の段階でもまち歩きマップというものがございます。そちらには、足尾の地図があつてお店や見どころが出ておりますので、こういったものを活用していきたいと思っております。

地域振興部長 別の視点で地域振興部からなのですが、私どものほうでは平成 28 年度から地域まちづくり事業提案制度というものを実施しております、地域の皆さんに地域に必要なものを検討いただいて、それを市の予算に反映するという仕組みです。枠としては、足尾地域として 270 万円くらいの予算の枠を持っています。現在、まちなか写真館の整備に取り組んでいますが、そういったものに活用しているということです。平成 28 年度に町内の店舗や観光案内、特産品の場所を明示した看板をつくられたと思います。とても好評だということもあり、今年度通洞駅と足尾駅に同じような看板を設置することになっ

ています。直接ご意見を集約していただいて、市の予算に反映する仕組みもごございますので、今後活用していただければよろしいかと思います。

副市長 私のほうから、お祭りとかに高齢の方とかが楽しく参加できるようにという導きの話だと思っ
ていまして、近所や隣組の方にお手伝いをしていただいて、今日お祭りだから出掛けようというお声
かけをお手伝い願えると、ありがたいと思っております。足尾地域については、防災行政情報システム
の無線で、通常ですと危険を知らせることが第一の目的なので、あまり行政情報に偏ったシステムの使
方は難しいのですが、足尾の場合は、以前からコンパクトな町の中である意味浸透しているの
で、行政情報も流しやすいという特徴があります。上手に使いながら、皆さんにお知らせが
できるといいなと思えます。危険をお知らせするのが基本なのですが、ただ、その辺もケ
ースによっては本当に天候が安定していたりするときには、そういった利用も多少可能性
としてはあるのかなと思えます。もう1つは、日光市になり広がったので、それぞれの地
域が遠かったりして、市内の別な地域のいい点やお祭りとかを知らないことがあ
って、昨年度から交流事業ということで、バスをチャーターして三依地区から足
尾まつりを見に来ていただいたり、そういったことを始めているので、自分たちのま
ちのいいところを知りましょうという試みは、これからも続けていけるのかなと思
っています。続けて、観光客への食事の提供に関するところでお願いします。

参加者5 今、食事をする店が少なくてということですが、観光客の方の8割が車で
こちらへ来られます。わたらせ渓谷鐵道を使われる方は2割なのですが、4月末から
市のほうの分庁舎をお借りしまして、サロンを通洞駅前にオープンしました。金・土・日
しかやっていないのですが、それを開いて気が付いたことは、車で来られた方はど
こへでも車で食事に行けるのですが、わたらせ渓谷鐵道で来た方には、帰りの電車
までにどこか食事をするところはないですかとよく聞かれます。足尾町は合併して
から人口減もありまして、お蕎麦屋さんなど閉店してしましまして、駅のそばには2、3
軒食事をするところがあるので、そこをご案内するのですが、行ってみるといっばい
だったとか、たまたま閉まっていたとかで、食事を取らないで帰られる方がいるの
で、気の毒だなということに気が付きました。私たちはお弁当を多めに持っていっ
て、どうしても食べる場所がないという方には、こんなものでもいいですかと言
っておにぎりなどを差し上げると、とても喜ばれております。皆さんに相談するの
ですが、食事をする場所がないといってつくっても、普段お客さんがいなければや
っていけないし、私たちだけでは考えが及ばないことだなと話しているのです。意
見が出ているものですから、皆さんのお話も聞きたいと思いますので、よろしく
お願いいたします。

参加者6 私も同じで、通洞駅から降りて銅山観光まで来る間に、本当に食事を提供
できるお店が少ないのです。1、2軒の数少ないお店で、足尾町全体で考えても神子
内地区や野路又地区にポツンポツンとあるだけで、食事を提供する場所がないので
困りました。何か足尾ならではの食べ物、先ほども言われましたように山椒でおに
ぎりをつくって販売できるとか、そういうのができればまた違うのかなとも思
いました。おにぎりをつくるとなると、衛生上ですとか、お店を開くとなるとお客
様が来ないと続かない、観光客の方だけに提供するというのもまた大変な話で、
どういふふうにかの先進でいったらいいのかなと思えます。土日だけとか祝日だけ
といっても、おにぎりをつくって販売するのは大変なこと

だと思しますので、本当に行き詰っている感がありますので、そういうところをどうしたらいいのかなと思ってあげております。

参加者 10 せっかく銅山観光を見に来て、食べる場所がないみたいなので、足尾町では難しいだろうから、日光市で何か考えていただければありがたいと思っています。

参加者 7 私は、先ほども言ったように副業ボランティアでさんしょう家を開いておりますが、本業があるので今年は不定休になっております。連休に開けたり、明日マルシェがあるので開けたりと、今はそういう状態ですが頑張ってきました。やはりきっかけは食べる場所がないという声で、無理やり起ち上げました。頑張ってきましたけれども、経費倒れをしております。借金は返せていません。でも、自分たちで起ち上げたので、とりあえずやっております。そういう仲間がたくさんできれば、本当はいいと思っております。みんなに言いたい話です。今まで頑張ってきた方が高齢化して、連れ合いが亡くなったり、廃墟になってしまっているのが、今の足尾町なのですね。マンパワー不足ですから、外からの力を借りたいというふうに思っていて、やはり商工会仲間で、移動販売をされている方もいるので、そういう人のグループ仲間に祝日とか限定で1カ月に2回とか決めていただいて、そういう方たちの力を借りて店舗を出していただく方法があるかなと、これをきっかけに考えているところです。

参加者 11 先ほども出ましたけれども、食事を提供する場所が段々少なくなってきています。今市はそばまつりなどをやっているの、そういうのを足尾でもやったらどうかと思います。ただ、ここは群馬県に近いので、そばに限らずうどんでもいいので、簡単なものを出せるような場所でもいいと思うので、そういうものを設置できればと思っています。

参加者 12 皆さんが発言したように、まちの中に食堂がないということは、観光客に対して非常に残念なことだと思います。これは、市のお力などをお借りして、1軒でも多くの食関係を出していただけたらと思っています。

観光部長 食事をするところについてですが、市が食堂をつくって運営するのは、なかなか難しいところがあるのかなと思います。が、皆さまから提案がありましたように、旅行の質が変わってきて、団体だったものが個人になってきてバスではなくて、訪れる観光客の皆さんは、先ほどの方からお話があったように、足尾ならではの地元で美味しいものを食べに来るのだと思います。実際に回していくとなると、今度は商売としてやっていく上では、地元の方にも食べてもらいたい、なおかつ観光客の方も来てくれる、そうなるとできるだけ多くの観光客の方に来てもらうということ、足尾で時間を使ってもらう仕組みとかも、合わせて考えていく必要があるのかなと思います。食べる場所の目線だけではなくて、銅山に来てそこから足尾の中で、どう時を過ごしてもらってという仕組みで、まちなかの滞留を増やしてお客様を増やすことで、お昼を食べたり軽食を食べたりとかという目線で、移動販売車など外からのパワーとか、もしかすると最初の段階で、そういうのも策としてはあるのかなと捉えております。

副市長 今、観光部長のほうからお答え申し上げましたが、直接的な行政の関与はなかなか難しいところがあります。新たに起ち上げたりする際に対する支援は考えられる範囲だと思っています。群馬県側のほうに行くと、自動販売機のうどんなど 1 回名が売れてしまうと、以外に人が集まったりします。その辺の手間がどのくらいかかるのかもあるので、採算に合わなければできない話ですし、三養会の話も昨年あったのですが、なくなったから市のほうで何とかと言われましても、市が直営で運営したとすると、他に商売されている方もいらっしゃるわけで、そういったところにも影響は出てまいりますので、関与としても 1 つ限界があるのかなと思っています。この件に関して、他にご意見ある方いらっしゃいますか。

参加者 5 私たちはサロンを開いて勉強になりましたことは、提供するという事は、保健所の関わりとか、コーヒー 1 杯でも入れてやるとレストラン法に関わるとか、いろいろな管理があることに気が付きました。何か売るにしても、施設内に手を洗う場所がなければだめだとか、そういうのが難しいなと思いついて、今は皇海荘でパンをつくっていますので、仕入れてパンを置いています。コーヒーはお客さんがドリップをカップにセットして、お客さんがお湯を入れてくれれば、お金をいただけるというシステムで、コーヒーを販売しています。最終的にカップうどんとカップラーメンを置いています。この間は若い方が入って来られまして、最終的にはここにカップラーメンがあることを覚えておきますと言って観光に向かわれましたが、今はそういうことをやっております。

副市長 次は、バスに関する課題ですが、これについてご意見ある方お願いします。

参加者 4 私は、足尾と日光を結ぶバス交通に関して申し上げます。先日 26 日、懇話会の準備の際に渡されました観光客数の資料で、平成 29 年度の足尾町の観光客数が少ないことに唖然としました。これは、栗山地域と比べて地理的に同様か、むしろ足尾のほうが来やすいのにどうしたのかと思ったのです。そこで、足尾と日光を結ぶバスの便でシャトルバス化という案があったり、定期のバス便にプラスして土曜、日曜、あるいは春夏秋の連休日に運行することを考えてみました。方法としまして、通常バスの運行ではなく足尾観光タクシーのワゴン車を使用し、料金は通常のバスと同額とするということです。時間帯は 16 時台足尾発、14 時台が日光発と考えました。なかなかこれは難しいことで、特に夏の観光客数が多いので、臨時的に試してみるということがいいのではないかと思います。ただ、必要と需要がどのくらいなのかというのを掴むのがとても難しいですが、29 年 3 月 7 日の地域交通を考える会でも、福祉と観光の目的でバスの必要性の意見がありました。また、最近松木方面に植樹に来られた方々からも、交通便の向上をとの意見がありました。そのほか、ロコミでもバスの便がもっとあったらなという話を聞いております。子供のころから、鉄道が日光まで行っていれば良かったなということを聞いておりますが、確かにそうですけれども、そのために日足トンネルがつくられたものだと思います。ですから、バスの交通をできる限り活用して、日光から足尾へ、足尾から日光への道筋、利便を考えていけたらと思います。話が外れますが、足尾の観光事業について、この度いろいろ考えさせられまして、昭和 48 年に閉山しまして 45 年が過ぎました。足尾町として観光事業に力を注いできたのですが、何にしてもその前には古河の土地、権利、権限に阻まれた厳しい中でやってきたと思います。今後、観光資源が数少ない中で、何とか 1 つ 1 つ解消、解決してくことが大切であると思いました。その 1 つとして、バスの交

通利便性を図っていただけたらと思ったわけであります。観光資源というのは、情報や見るもの、食べるもの、体験する、そして、交通網などがあるのかなと思いました。

参加者 10 日光にやしおの湯がありますが、そこは路線バスが通常走っているのです。結構観光客も立ち寄ってお風呂に入ったり、食事をしたりしているので、せっかく足尾にもかじか荘があるのですから、そちらへ回したらどうかと思います。

参加者 12 私も4番の方と同じようなことなので、よろしくお願いします。

市民生活部長 公共交通に関してですが、ご要望等をいろいろとお聞きしてきました。去年は特に計画をつくり直すということがありまして、何回かお邪魔してご意見を伺ってまいりました。今日のテーマが観光の誘客ということなので、バス路線そのものとはちょっと難しい部分がありますが、ひっくりめた話で申し訳ないのですが、足尾地域の公共交通網というのは、市内でも恵まれています。先日、県全体のカバー率が新聞に載りましたが、県全体で90数%ありました。日光市の平均が約87%でした。広い日光でこの率は、私のほうとしては非常にいい率なのではないかと捉えています。この地域だけを見ますと96%あります。それと、数字には表れませんが、タクシー券というこの地域独自の制度もありますから、それを入れるともっと高くなります。公共交通という面から見ますと、行政としての整備率は数字的には高いのですが、この数字だけでは実態とは違うというのは重々わかっています。バス停まで300mというのが計算の基準ですが、それもできないというお話を市全体としてお聞きします。公共交通という分野から離れて、そういう人をどう救うのかという、言ってみれば社会福祉という分野になるのかなと思っております。ただ、そういうお話を伺いましたので、この地域では計画上は市内の路線バスを廃止して、もっと有効な手段を考えましょうという方向性はつくりましたが、バス路線は廃止しますと、もう復活はありません。ないとは言い切りませんが、難しくなります。去年、市内もデマンドバスがいいというご意見を伺って、それにしますかということで、現実に別のところでデマンドバス化をしましたが、利用率はなかなか上がりません。ドア・ツー・ドアですから家まで行けるのですが、それでも今のところ上がらないというのは、どうにかして頑張っているのだろうと、そういうふうに見るしかないので、ですから、最終手段としてデマンドバスやデマンドタクシーもできますが、最後の最後までいってしまいますと、なかなか戻れないので、市として維持するのは大変なのですが、今ある路線バスを利用してもらうことを考えたり、頑張れるだけ頑張ってもらいたいと、個人的には思っております。どうやったら解決するのかは難しく、計画上はそういうことになっていますから、この地域にはこういう方法があるのではないですかというご提案は、差し上げたいと思っておりますので、どういう道を選ぶのか、それは地域と相談して考えていきたいと思っております。あと観光というのがテーマですので、わたらせ渓谷鐵道は、私の分野とは違いますが、すごい観光資源だと捉えております。足尾に行ってこれを食べるために寄るといふ人も、もしかしているのではないかと考えているので、そういう活用方法を見出すのもいいのではないかと思います。

観光部長 かじか荘のお話がありましたが、ご要望は路線バスということでしたが、かじか荘自体を利用される方は、今、バスでの送迎はやらせていただいております。先ほどの食事の話とかにも繋がるの

かなと思いますが、流れとしては、わたらせ渓谷鐵道に乗ってきて、市営のバス、日光の JR、東武というこの辺のところ、例えば時刻表の一覧の乗り換えとか、何時に乗ってどこへ行けばどこで過ごせてとか、何時の電車に乗れるというような、来られた方が公共交通を使ってスケジュールが立てられるようなものがあると、そういうものを使うことによって、足尾で滞留する時間とか、便利なほうがいいと思いますが、空き時間ができてしまうのであれば、その空き時間でここに留まってもらって食事をしてもらうとか、そういう資源を上手く使うことと、時間を上手く使うという、そういった発想なども観光という目線ではあるのかなと、お話を聞いて思いました。

参加者 4 今、市民生活部長のほうから路線バスを廃止するという話が出ましたが、これは大体決まっているのですか。もし、それをやるとしたら大変なことなので、足尾町の住民投票をしてでも決めたほうがいいと思います。簡単に決められるものではないかと思います。生活を守るということで、大事なことだと思います。観光も大事ですが、生活を守ることがとても大切な状況です。

市民生活部長 そういうつもりで言ったわけではなくて、お話の中で昨年もデマンド化がいいという意見が多かったのです。そういう道も探るのですが、そちらを選択すると、路線バスと両方ということにはなり得ないのです。ですから、今の路線バスを活用して、もう少し工夫できる場所があればして、維持しながらその間をどうするかという方法を、考えるのも一つではないでしょうかということです。ただ、全体をデマンド化しようという、そのデマンドという言葉が非常にスーパーマンみたいな聞こえ方をしていますが、実際はバスでタクシーではないのです。バスですから定時運行ですし、年がら年中走っているわけではないのです。そういったことをよく分析して、どれが一番いいのかという道を探る必要があるのではないのですかということです。こうしたらこうなるというシミュレーションをうちのほうで考えて、改めてまたこちらにご相談をしたいと思いますので、そういうかたちで何回か議論をして、どういうものがあるのか、市ができるのはどこまでなのかというのを探っていきたいと思っておりますので、決してすぐに廃止するというものではありませんので、ご理解をいただければと思います。

参加者 5 今のバスの件ですが、結構群馬のほうからわたらせ渓谷鐵道に乗って来られて、銅山観光に来られたのかなと思うと、ここからバスに乗り継いで日光へ行って、日光を観光してきますという方が何人かいらっしゃいますので、日光へのバスがなくなったら困るなという感じがいたしました。

参加者 7 去年もいろいろ言わせていただいたのですが、バスが新しくなりましてありがとうございます。ただ、こちらからお願いしているのは、大きなバスはいらないと再三申し上げているのですが、新しいバスも同じようなバスになるのでしょうか。コンパクトでもいいと思うのです。そんなに大きいのは足尾はいらなくて、市営バスのまわりを文星芸大にお願いしてラッピングをしてもらうとか、楽しいバスになればいいなと思います。足尾から日光行きのバスが、あのバス何だろうと思ってもらえるようなラッピングをぜひお願いしたいのです。あとは、録音したものを流して、観光の要所で停まるようなところを事前に案内したらどうかと思います。今あるものを最大限利用するには、これは市営バスだ、これは観光だという縦割りではなくて、横割りの考え方で地域振興の方に頑張ってください、そこを繋げるような魅力のあるバスにしていきたいのが要望です。

市民生活部長 中身の話はこれからできますので、そこは観光のほうとどういったことができるのか、相談できると思います。

副市長 サイズの問題は、生活路線だけで言ったらワゴン車でも足りてしまうという話もありますが、やはり観光のハイシーズンのピークのときに、それだけの人数が乗るといった話になった場合、その辺の問題もあります。

参加者7 私は11人乗りでもいいと思います。

市民生活部長 路線バスは、ある程度基準がございまして、今度のバスも座席と車椅子等のスペースが一緒になったつくりなのです。ですから、いろいろなものがないのです。それしかないと言っていいぐらいのものしかないものですから、それを選ばざるを得ないということもあります。

市長 色々な規格をクリアしないとならないことがあります。

参加者7 少し工夫してほしいのです。規格は仕方ないとして、市民課と観光課の横のつながりで、何か工夫してもらいたいと思います。

参加者6 かじか荘の送り迎えのバスは確かに出てはいますが、観光客相手にかじか荘まで乗せていくという路線バスみたいのを、出してくださいと言ったら出してもらえるのですか。日光までの本数をもう1本増やしてくださいと言えば、増やしてもらえるのですか。

市民生活部長 路線バスは、今までいろいろな議論をして今のかたちになってきていますから、本数を増やすことは不可能ではないと思いますが、要は運転手の数とかバスの数とか、そういったものが足りるかどうかというのがあります。長い区間ですから、バスがもう1台必要になるかもしれません。不可能ではないのですが、そういった経費の面と見比べながら考えなくてはいけないと思います。

参加者7 かじか荘は温泉ですので、足尾の住民の人はかなり日帰りでお風呂に入りに行くのですが、年を取ってしまって免許を返上する方が出てきています。そういう人たちのために、市民のためのバスとして捉えることはできますか。

市民生活部長 冒頭に同じようなお話をさせていただきましたが、公共交通という部分と、高齢者のための福祉という部分をどうバランスを取るのかということかと思っておりますので、誰がどれだけ助けるのかという部分なのです。ですから、地域として隣の人を地域で助けようというのものではないかと思えます。そういうのも含めて、どれだけ支援するのかというのを考えないと、安易に出しましよというやめられなくなりますから、慎重に考えていかなくてはならないと思っております。

副市長 例えば三依地区や栗山地域で、バスを出して買い物ツアーをやっていますが、最初はボランティアの方に協力していただいてスタートしたのです。買い物ツアーと銘打っていますが、買い物自体は宅配業者とか移動販売車などで、ある程度は食料品などを調達することができます。要は引きこもりがちな高齢者の方に、楽しみを味わっていただくために、今市の中心部の大規模な店舗に行ってみたりとか、バスの中で会話をしながら楽しんでもらったり、そういった意味でやっています。足尾も社会福祉協議会のほうでやっています。そういった観点で、温泉に入りに行くのが唯一の楽しみだという方の需要が多ければ、そういった協力がもしかしたらできるのかなと、そんな見方もできると思います。次に、足尾銅山観光に関する事で、ご意見ある方お願いいたします。

参加者 7 銅山観光は昭和 55 年にオープンになって以来、私はそのときキャラバン隊として、足尾の観光として宣伝に行ったのですが、そのときから考えても 40 年近く経ちますが、何ら中身が変わっていないと思います。スタッフも工夫をして、門を入ったら 1 つのテーマパーク化をしていただきたいというのがありました。去年、さんしょう家をやっている観光客が少ないなと感じていたところ、この間の集客数を見ましたら、日光市全体としては 1,200 万人と非常にいい数字を出している中で、栗山も多くなっていますが、足尾は最低で、20 万人が 17 万人で少なくなってしまう、今年に突入してもやはり少ない状態が続いています。去年は、わたらせ渓谷鐵道がしばらく脱線してしまったので、それはかなりの大きなことでした。やはりわたらせ渓谷鐵道あつての足尾の観光かなと非常に感じましたが、通洞駅を下りたお客様は、銅山観光は見たからいいやと何度も来たいというふうには思えないそうです。ここに至って観光は考えていただいて、銅山観光の中をテーマパーク化してほしいと思います。その 1 つの案なのですが、スタッフの皆さんは揃いのポロシャツやジャンパーを着ているのですが、そうではなくて、観光のそれぞれの時代の格好をしていただきたいというふうに思っています。底辺では提案していたのですが、なかなか難しいらしいのですが、そうも言っていられないのではないかと思います。足尾の銅山観光を考えたら、誘客数が減っている中で、やはり工夫をしていかなければならないのではないかと非常に思っています。そこは市民の皆さんに回覧をして、眠っている着物とかを提供してもらえと思うし、できるだけ市には負担をかけないで、できる工夫があるのではないかなというふうに思って提案をいたします。また、市のほうで予算がかかるのかなと思うのですが、実は銅山観光に来たお客様が、昨日もそうだったのですが、目の前にゲートがあるのに、観光協会、行政センターにどこから入るのですかと聞かれることがすごく多いのです。これはやはり銅山観光として、入り口を考えていかなければならないのではないかと思います。下に切符売り場がありますが、それを上に持ってこない、わからないのではないかとこのように思いました。ここは市のほうの予算がかかることかなと思うのですが、切符売り場は上にあげて、ゲートをつくってそこから入るだけで、テナントの人たちは老朽化した中に入っているのですが、無駄な予算は使いたくないということで、去年、耐震はやめたそうです。それはすごい賛成なのですが、テナントの方たちは非常に長年頑張っている人たちなのですが、テナント料が高くて、すべての施設料を考えると、ものすごく大変だなというふうにおっしゃっています。そこを開放していただくためにも、その頑張っている人たちのために、出口をつくってテナントのほうへ誘導するようなやり方で、上の駐車場を工夫してそこへテナントを上げていただきたいというのが提案です。飲食店なのですが、今、無料休憩所がありますけれども、その一角にドライブイン形式で、一方方向のカウ

ンター方式で、お店がそこに何店舗か入ってしまっていて、無料休憩所のテーブルと椅子を使えるような、有効的な休憩所になればいいなというふうに提案をさせていただきました。

副市長 他に3名様いらっしゃるので、順番にお話をお願いします。

参加者10 銅山観光をたまに見ると、本当に活気がないのです。活気がないということは、お客さんがいないということだと思うのですが、お客さんを足尾へなんとか連れて来ないと、活気も戻らないのではないかと思います。足尾銅山はなんだと聞かれても、説明するのが難しいのです。穴を掘っているだけが銅山ではないと思います。聞かれたときに説明が非常に難しいです。情報によりますと、ラジオなんかかけているとトロッコ列車に結構予約がいっぱいらしいのです。そのお客さんを足尾へなんとか呼びたいなという気持ちがあるのですが、食事ができないということで、沢入あたりでみんな下りてしまみたいですね。それで足尾にはあまり来なくなってしまったのですが、来ているときはすごい人が下りていました。それはもったいないなという気がしています。

参加者12 先ほどからずっと出ております食堂がないということですが、テナントを開放すればいいと思います。今までと同じ使用料にしたなら、これからやる人はおそらくいないと思います。そこで市にお願いしたいのは、このテナントを安く開放して、それでもやるかやらないかはわからないですけども、食堂を開くとしても、衛生面とかの手続きを市のほうでやっていただくと、個人でやるよりは簡単なのではないかなというふうに思います。

参加者13 個人的な意見で申し訳ないのですが、また、銅山観光会計には寄与しないのですが、元号が変わる来年は開設40年なので、市民優待券の発行を検討してみたいかかでしょうか。お客様が見えることにより、テナントやその他、少しでも経済効果があるのではないかと思います、提案した次第です。発行費用を1枚100円とすると、全世帯3万6,000枚で約300~400万円かかりますが、期間限定ならオフシーズンの冬場対策にもなると思いました。

観光部長 いただいた中で、具体的などころでのご意見として、スタッフのユニホームというお話がございました。こちらに関しまして、銅山観光は通年で営業しておりますので、暑さ寒さではないですけども、働いている職員の健康、そういった面にも配慮する必要があると思いますので、ユニホームを考えていく上では、いただいたアイデアを含めて、今後検討していく必要があるかなと思います。それと、テナントの開放ということがございましたが、たぶん料金というのは、行政財産使用許可というかたちだと思うのですが、それプラス共益費が発生していると思うのです。料金の在り方等々につきましては、今この場ではなかなか市として安くするとかというのは難しいかなと思っております。それと、市が何かできないかというお話もございましたが、市が食堂の部分の経営に携わるとするのは難しいかなと思います。また、入り口の工夫のお話もございましたけれども、プラス銅山観光というのはやはり足尾の核となる施設で、それを今いただいているいろいろな課題があるという中で、情報の提供とか、食事のお話ですとか、交通も含めてかもしれませんが、やはり全部連動する話だと思うのです。これを核にして、いただいたアイデアというのは受け止めますけれども、短期の集客だけではなく長期という

ことで、お客様のニーズも変わってきますので、30年40年という中で多くの方が来られた時代もあった、でも今は少し時代が変わっている、でも環境学習とかそういった目線もあるとか、いろいろなニーズがあると思います。インバウンドでの日本人とはまた違ったものを求める外国人の方もいらっしゃる、そういった長期的な目線で、足尾の銅山観光を軸としての長期のビジョンみたいなものを、市がつくってもたぶんだめだと思います。実際にお話しをいただいている皆さん、それから特に事業をやる事業者も交えて、そこに市も加わって協働でつくるといふかたちで描いていかないと、いろいろなご意見やアイデアが出てくるわけですから、将来の足尾の観光戦略として、どういうふうにしましょうか、それを他人事ではなくて皆で自分事として捉えて、進めていくことが重要なのかなと、一連のお話で強く感じているところです。それと市民優待券ですが、日光市が合併して全国で3番目に大きいのですが、お互いにいいものがという話で交流事業をやっていますけれども、それと日光市民の日には無料開放もしてございます。そういった中で考えますと、今それをプラスでというのはなかなか難しいのかなというふうには捉えますけれども、お話しさせていただきましたように、市民の方も含めての交流事業というか、皆さんが集まれるような銅山観光にしていくというほうへ描いていく、それが大切かなと感じています。

副市長 次は、かかも茶論についてです。こちらのほうでご意見がある方お願いします。

参加者13 かかも茶論ですが、今年4月下旬に、民間有志が通洞駅前の旧観光協会跡に開設したもので、来場されるお客様へのおもてなしや地域内の高齢者などの交流を目的としております。また住民の生きがいづくりを目的に、趣味を生かした手作り小物も足尾土産として販売したりしています。観光面だけでなく、地域福祉の観点からも重要な活動だと思っています。まだ2カ月足らずでこれまで28回開催し、利用者数延べ348の方が利用され、お客様に喜ばれている状況です。これまでも行政をはじめ社会福祉協議会や中学校などのご支援をいただきましたが、今後とも引き続き私たちも実績をつくれるよう努めてまいりますので、様々な面で行政のご支援をいただきたいと思っています。資金面など脆弱なので、室内照明など設備の充実にお力添えをいただきたいと思っています。

参加者7 かかも茶論を起ち上げた理由なのですが、高齢者の方たちや足尾のみんなが、お茶のみ場として起ち上げました。いろいろな豊富な経験を生かして、おもてなしの場として、今、意義ある場所になりつつあります。ここでやはり一人暮らしの人たちが、少しでもかかも茶論を知って入っていただけたらなと思っています。来訪者には暇つぶしの時間を作っていただいて、お茶のみしながら足尾の話がそこで聴けたらちょっとしたガイドができていますので、これをさらに広めていけたらなと思っています。あともう1点なのですが、まちの中に観光案内所があって、それを今の場所へ移転したところ、反対した方はたくさんいたと思います。通洞駅前の案内所はそれでいいじゃないかということはありませんが、実際問題、観光客数は9割方車でいらっしゃるのが実情で、世界遺産のほうで交流館を開いて、そこで案内をしているメンバーが、お客様に案内ガイドをしている状態です。観光協会はそういう役目ですから、このエリアに移動するのが筋ではないかというふうに、観光協会で話し合っ、公共の在り方みたいなものもありますので、共有するという使い方で今のところに移転したということをお話していただけたらなと思っています。観光協会長にお願いしたのは、老朽化という問題はありましたが、いわゆ

る観光協会は市から予算をいただいている状態なので、市の施設という公共的なものというふうに捉えるのかなと思って、老朽化しているところにずっといいのかなというのはありましたので、そういう意味も1つあります。最大の理由は、先ほども申したように、ここが観光の場所だから、ここに観光協会があってほしいということで移動しましたが、住民の方にそれを一人一人わかってもらわなくてはならないというふうに思っています。市の皆さんにも、そのところは認識していただきたいということであげました。

観光部長 かんも茶論につきまして、今ご説明いただいたところで把握はしております。このかんも茶論自体、本来介護予防のための集いの場ということで、福祉のほうでということですが、確かにそこを軸にしておもてなしでしたり、鹿の皮の工芸品とか、地域の活性化に繋がるようなこととか、いろいろなことをしていただいています。そういった中でのご要望ですが、縦割りで云々ではないのですけれども、役所とすると複数の部署が関わっている状況がございますので、この辺の詳細については、あとでご相談をさせていただきたいというふうに思っております。

副市長 ここは高齢の方とかが集う場所としての拠点というか、茶論という話もあるのですが、訪れた方が、足尾のいろいろな歴史や古い話も含めてご存知で、例えば観光客の方に説明とかそのような導きというのは、もしかしてやられているのですか。

参加者13 やっております。

副市長 そうなると、生きがいも感じられるし頭も使いますね。次に、ハード的なトイレに関することで、ご意見をお願いします。

参加者7 トイレも、やはり銅山観光開設以来のトイレで、銅山観光の予算で少しずつ洋式化している状態はわかっています。今年も2つ増えまして、片側4つ洋式化になって大変ありがとうございます。ただ、あのままではやはり観光事業としては、おもてなしにはならないかなというのは、町中の人が思っていることなので考えました。銅山観光の予算で多少の改修はされているのですが、これが日光市の観光事業の予算で、再度要求というのはできますか。これができない場合、近々もちろん新築とかは無理なのかなというふうには感じているのですが、少し予算をいただいて、今あるトイレを囲ってしまうようなイメージ、足尾銅山なので坑内に入っていきようなトイレにしたらどうかと思います。それも低予算化で、文星大学とタイアップしているのであれば、学生さんに坑口の絵を書いていただいて、内装もお客様が坑内に入ったようなイメージにさせていただいて、塗装をしたりとか絵を書いたり、低価格で改修ができればと思います。このトイレ面白いというふうにしていただけたらなど、ここに書かせていただきました。外装のトップ材料なのですが、石原産業の光触媒の酸化チタンコーティングというのがあるのです。これは表面加工すると、雨が降ったりすると水溶性があるので、それと相まって汚れと一緒に落ちてしまうのです。そうすると、メンテナンスもいいのかなと思います。それと内装にブラックライトを夜間付けておくことによって、朝までにトイレの臭いなどが解消されるという効果

がブラックライトにあるので、そういう工夫をして、今あるものをなんとか楽しいトイレにということ
で考えました。

参加者 13 銅山観光、通洞駅、足尾駅のトイレが老朽化しておりますが、観光地にとってトイレはと
ても大切だと思うのです。見劣りのないようなトイレの整備だけはきちんとしていただきたいと思いま
して、提案しました。

観光部長 トイレにつきましては、冒頭でお話しさせていただきました日光市観光施設管理計画という
もので、今、洋式化というかたちで、日光市内には公衆用トイレが約 76 箇所あります。それを計画的に
洋式化したり、改修をしたりというかたちで進めているところです。銅山観光につきましても、そうい
うものに準じたかたちで改修をしているという現状です。ここでご提案をいただいている方法というも
の確かにございますが、前段で出てきた銅山観光をどうするというご提案の中で、トイレの部分を先に
やるタイミング的なものもあるかもしれませんが、そういった部分で必要性があればそういうのも選択
肢であると思うのですが、入口をどうするとか、テナントの場所とか、お土産屋をどこへ配置するとい
うお話になってくると、トイレの場所もあそこがいいのかということも含めて、一体的に考えていく必
要もあるのかなと思います。トイレの改修、きれいにするという目線もあれば、少し目線を広げて銅山
観光とした中で一帯をどうするかというような、このアイデアを生かしつつ一緒にそういうものを考え
ていくというのも、すごく重要なことだと思っています。それと、わたらせ渓谷鐵道の駅にあるト
イレの話なのですが、こちらは管理計画に基づいて、順次改修等を進めておりますので、設置場所がわ
たらせ渓谷鐵道の駅にありますので、当然わたらせ渓谷鐵道とも協議をさせていただきながら、計画的
な改修というものを進めていきたいと思っております。

市長 足尾の公衆トイレに限らず、観光客の皆さんにとって重要な部分だと思います。気持ちよく観光
に集中してもらえるように、内部で検討したいと思っています。15 年、20 年後、私たちはいないかもしれま
せんけれど、またそのときにトイレを何とかしたいという話が出ないように、考えたいと思います。

副市長 次に、個々の課題ということで、かなりの数が出ていますが、個別案件なのでできる限りの部
分で説明していただければと思います。

参加者 12 銅山観光の開設以来、何十年と経っております。観光客も減っているのではないかという
ことで、今後に対しては、古河の建物や古河の土地がありますので、古河の産業遺産を見て回るような
道筋をつけていただいたらいいのではないかと考えております。

観光部長 確かに産業遺産というのは、足尾としては観光資源という側面もあるかとは思っております。
今日まで DC キャンペーンというものが開催されておまして、その特別企画として古河さんのほうで、
特別に産業遺産の一部を見せていただいたという経緯もございます。反面、古河さんのほうにしてみ
るとセキュリティの面だったり、見られる方の安全確保とか、いろいろな課題があるのも事実ですので、

この資源をどう使うのかという視点と、所有者であります古河さんとは、協議というのは必要だろうと思っておりますので、そこを踏まえた上でというかたちで捉えております。

参加者 1 銅山観光はだいぶ日数が経ちまして、ここら辺でイメージチェンジをお願いしたいということで、今、銅山観光のところへ行きますと、トロッコで中へ入っていきます。それと手前に鑄銭座というのがあります。江戸時代にお金をつくった経緯があったようです。これから年月はかかるでしょうが、ぜひとも実際にやっていけるような観光にしてもらいたいと思います。東北のほうに行きますと、南部鉄瓶というのがあります。大きいので危ないかなという気はするのですが、足字銭は小さいものですから、小さい煎餅の串玉みたいなもので、砂型で湯を入れて壊して磨きをかけて、銅山観光に来た人たちにあげたらどうかと思います。

観光部長 確かに歴史あるもの、それから見る観光から体験する観光というふうにニーズも変わってきています。そうすると、見るだけだったら 5~10 分のところが、体験すればそれなりの時間がかかるというものもございますので、滞在時間が長くなるとか、宿泊に繋がるということもありますので、こういったアイデアというのも、足尾の銅山観光を軸としたビジョンというか戦略の中で、検討していく 1 つのアイデアかなと捉えております。

参加者 1 これは、市長の任期時代に確実にできる内容でございます。よろしく申し上げます。

参加者 1 1 先ほど出てきましたけれども、古河の土地がほとんどなのです。今までも観光事業で、こういうことをやりたいと言っても、問題があってできなかったのです。あるいはボツになってしまったということが、土地の問題でかなりあるのです。それを解決しない限り、何か新しいことは無理ではないかなと思います。鉱害の見学というのは、おそらく古河でいいですよというのは言わないと思います。それがいつもネックになっているので、なかなか観光事業そのものが前へ進まなかったということがありました。

足尾行政センター所長 古河との関係ですけれども、日光市に合併になってから足尾銅山の世界遺産登録推進ということで、前市長は直接古河本社のほうに行かれて、合併前の足尾町とは全く違う対応に代わってきております。先ほど産業遺産見学会の話も出ましたけれども、製錬所の中に一般の人が立ち入ることはできませんでした。あと選鉱所も一般の人が立ち入ることができなかったのが、そういった取り組みや動きをすることによって、見学会というかたちで入ることができるようになりました。この土地も元々は古河の土地だったものを提供いただいて、庁舎を建てることができましたので、以前の状況と比べて、古河と日光市の関係というのは、かなり変わってきているのではないかと考えております。

副市長 本当に必要不可欠と言いますか、そういった状況や条件の場合には、もちろん直接市長がお願いしに行くこともできると思いますので、その辺は古河さんもかなり世界遺産に向けて協力をしていただいている話だと思いますので、今後もその辺の関係性はいいほうに構築していきたいと思っております。

観光部長 事前にいただいたアンケートに基づきまして、観光部で簡単にお答えさせていただきたいと思います。山ガールの登山、ハイキングの奨励、山道の整備や設置に協力しますということにつきましては、本当にありがとうございます。先ほど申し上げています、ビジョンをつくりましようと言っても、たぶん他人事ではうまくいきませんので、自分事として捉えていただいて、こういうかたちで一緒に考えていただいて、一緒に行動していただければ、非常にありがたいというふうに思っております。次の楽しめる銅山観光以外の施設というお話なのですが、どんな施設なのかわからないのでお答えが難しいところがあるのですが、今の財政的な部分で、これからの世代に負担を掛けないという考え方ですとか、今、市自体がマネジメント計画の中で、ハコモノが多すぎるかなという現状を踏まえますと、新しいものをつくるというのは結構ハードルが高い話になるのかなというふうに捉えております。次の足尾観光課はこれまでと違って前面にというお話がここにあります、協働で一緒にやっていく上で、市というのは公平・公正な立場にありますので、観光という側面は民間事業者が入って、そこで儲けていただくという目線が当然必要になりますので、それに対して公平な立場からコーディネーターというか、そういった立ち位置で協働という中では、一緒に参画をさせていただきたいと思っております。次の協会との連携というのもおっしゃるとおりで、観光協会とは連携を太くして行なっていきたいと思っております。各種スポーツ大会で観光客という話ですが、スポーツツーリズムという言葉もありますけれども、そこまで大きなものかわかりませんが、やはりスポーツをするのにここへ集まっていたいて、そこで遊んでもらう、スポーツするだけではなくて美味しいものを食べてもらう、遊んでもらう、足尾の歴史を学んでもらう、そういった中で時間を使ってもらって、やはり宿泊にも繋げるとか、これもビジョンに繋がっていくのかなと思います。ビジョン作成の中のアイデアとして入ってくるのかなというふうに考えております。

市長 皆さん長時間にわたり、どうもありがとうございました。所信表明の中や、選挙戦の最中も日光プライドという言葉がずっと使っていました。日光に対する郷土愛ということ。それから地域アイデンティティ、その前に、ここには足尾プライドがあると思います。合併する前の、足尾プライド、栗山プライド、藤原プライド、今市プライド、日光プライド、それぞれの地域に、やはりそれぞれの誇りを長い伝統文化、歴史の中にみんな抱いている、あわせて大きくなった日光プライドも皆さんと共有したいという思いで、日光プライドという言葉を使わせていただきました。

日光と言えどどこに行っても通じます。市長会に行くと、814人の市長がいるのですが、日光市長という栃木県知事よりも名前的是はすぐわかる、そのくらい名前は売れています。そこに住む我々が、どれだけのプライドと自信と誇りを持っているかというのが、非常に大切だと思います。人口が減少してくる中で、元気を失いがちになるところを、行政と企業と、そして住民の皆さんで知恵と力を出しあって、なんとか次の世代にバトンをしっかりとわたせるように、頑張ってもらいたいと思いますので、ぜひ今後ともご協力、ご意見もいただければと思います。

最後に私から提案ですが、先ほどのサロンの場所に、山椒のおにぎりを握って、お客様がいっぱい来そうなときには、販売していただければと心からお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。